

【源泉交游】

図書館の「コンテンツ」と「コンテナ」について

一般的に言って、ものには手順というものがあります、手順を誤れば予期せぬ結果を招くこともあり、時には混乱を招く原因となることもあります。建築物は基礎工事から初めて後に建屋の建築に掛かるのが一般的なように、手順には順番があります。

しかし、市当局は新しい「中央図書館」の建設にあたり、建物の基本設計の後にどんな図書館にするかについて迷っているようです。それは「コンテナ」を先に決めることを優先して、後から「コンテンツ」をあれやこれやと迷っている様子が、市の広報でも明らかなおりで、す。本来中身を決めてそれにふさわしい入れ物を設計して作るのが順当な手順ですが、新しく創る図書館について、入れ物である建物の設計を先に決め、その後、中身の見当をあれやこれやと始めようとする逆の発想手順で決めようとしているようです。つまり「コンテナ」を決めてから「コンテンツ」を決めようという倒錯した手法です。これは建屋を立ててから基礎工事を始めようと言うような順序であり、発想が逆転していて倒錯した現実離れの手順といえます。例えて言えば、中身が丸いものか四角いものか、あるいは大きなものか小さなものなのかが解らないまま、包む内容物を決めずに、包装紙を選ぶかのように「コンテナ」の工事を優先して決めようとする手順の発想です。

しかし、この倒錯した発想にこそ、当局の思想と狙いが反映されています。それは、何が優先されているのかを観察することで、何を重要視しているのか、何を目指しているのかは予想がつくからです。はっきり言えば、「中央図書館」建設構想は、国から支給される補助金目当ての工事です。それにかこつけて図書館を新築するのは、いわば、ついでの言い訳であって「コンテナ」の工事が主目的だと言う事です。38億円の予算規模は久々の大型案件です。お金の動くところには必ず“利権”が伴います。

“強権好き”“利権好き”の前市長のもとで鍛え上げた優秀な幹部であった二人の福田氏が見逃すはずはありません。人は自らの成功体験を繰り返す動物です。前市長の“ひそみに倣って”成功体験の追体験を計画しているようです。そうでなければ、図書館を管理・発展させるべき要職にありながら、地域住民の反対を押し切ってまでして、強権をもって東図書館を廃止する理由は見当たりません。しかも、東図書館を廃止して「中央図書館」を創らなければ、現状の図書館の補修費に7億円も費用が掛かると捨て台詞のように市民を脅し、強引に自説を正当化しようとする姿勢には驚かされてはいけないことです。

市民のための市政が、市の幹部たちや工事業者たちの“利権”が第一の目的であってはならないことです。今一度図書館は市民のためのもの、地域の住民が利用しやすい形で提供されるのが望ましいと言う基本の確認が必要な様です。世間では「事実は小説よりも奇なり」と言いますが、利権に群がる人たちが陰に回ったところで「お主も悪よのう・・・」とニンマリささやき合う場面を想像するのは御免こうむりたいものです。